

中小企業の業況は、売上面において改善傾向にある。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成23年10～12月期の実績と平成24年1～3月期見通しについての調査結果（回答率84%）をまとめた。本調査は3ヶ月毎に年4回行う。

業況DI値について、前年同月比の今期（平成23年10～12月）の状況を集計したところ、業況判断DIは、かわらずマイナスで推移しているが、改善傾向にある。

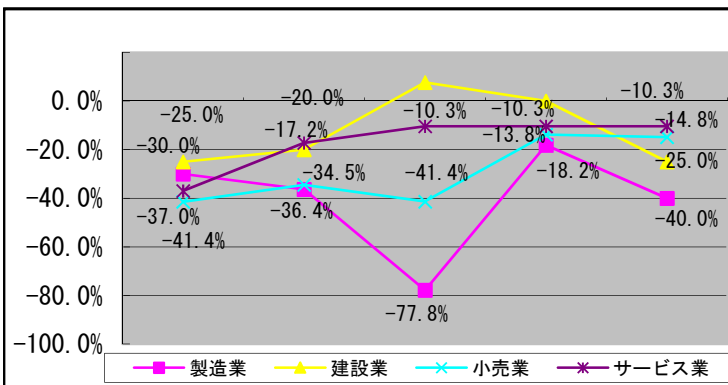
全業種のDI値に見る業況判断は、製造業：▲78%→▲18%、建設業：8%→0%、小売業：▲41%→▲14%、サービス業：▲10%→▲10%となった。その中で、売上面に関してのDIが全業種とも前回よりも改善した点が今回の特徴である。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の15.9%、来期設備投資を計画する見通しである企業は、11.0%となった。また、今期の経営問題では、需要の停滞や消費者・利用者ニーズの変化への対応等、前回

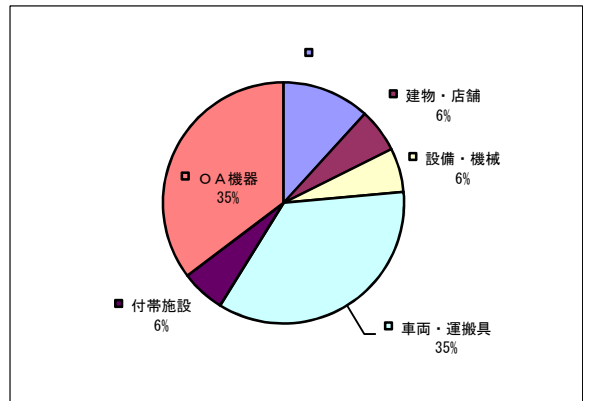
◆業況DI値（今期の状況）

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	-12%	↗	0%	↗	-10%	↗	16%	→	-19%	↗	0%	↘
製造業	-18%	↗	-33%	↗	-25%	→	18%	↘	-50%	↗	0%	↘
建設業	0%	↘	17%	↗	0%	↗	25%	↗	-33%	↘	8%	↘
小売業	-14%	↗	0%	↗	-17%	↗	10%	↘	-17%	↗	-11%	↘
サービス業	-10%	→	11%	↗	0%	↘	12%	↘	0%	↗	8%	→

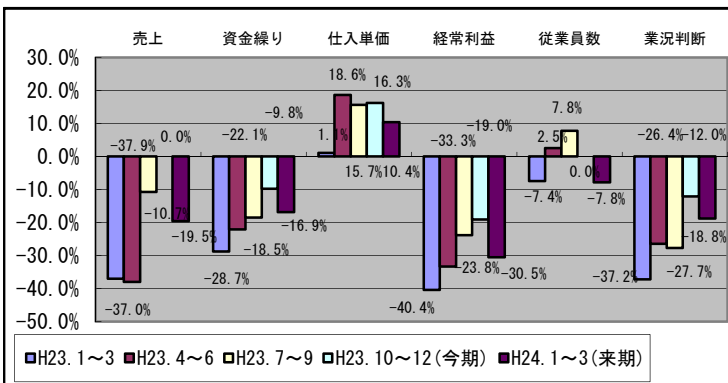
◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）



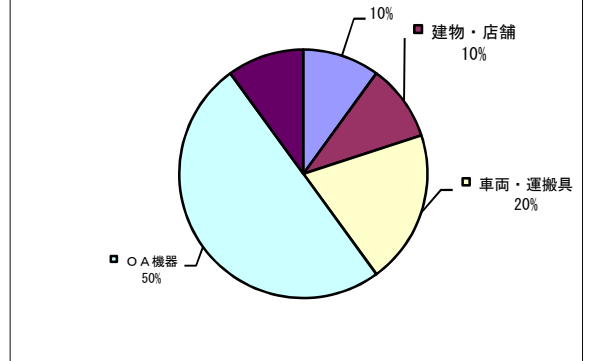
◆新規設備投資（今期実施・来期計画）



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



【来期の実施計画】



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	製品(加工)単価の低下・上昇難 18.2%	請負単価の低下・上昇難 26.5%	需要の停滞 18.3%	需要の停滞 25.4%
2位	需要の停滞 18.2%	民間需要の停滞 23.5%	購買力の他地域への流出 15.5%	利用者ニーズの変化への対応 18.3%
3位	製品ニーズの変化への対応 原材料価格の上昇 12.1%	官公需要の停滞 11.8%	消費者ニーズの変化への対応 12.7%	店舗施設の狭隘・老朽化 12.7%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。